

武漢事務所便り週間新聞記事報告（2012年3月24日～30日）

武漢における新たな目標-「東方デトロイト」を建設

2012年3月29日 武漢晩報

上海 GM 会社が 2014 年に、武漢にて生産を開始すると、メイドイン武漢の乗用車は東風シトロエン、東風プジョー、東風ホンダ、東風風神、上海 GM と合わせて 5 つとなる。

東風グループは武漢の生産基地を中心に、仏国の PSA プジョーシトロエングループ、日本のホンダ、日産等と共同出資し、東風プジョーシトロエン、東風ホンダ、東風風神等のブランド車を生産するほか、杭州、鄭州、塩城、広州などにも支社を設けている。

20 年間にわたる発展を経て、完成車及び部品の生産は武漢にとって初の千億元(約 1 兆 3 千億円)の産業となり、東風シトロエン、東風プジョー、東風ホンダと東風風神などの東風シリーズの車を組み立てる完成車工場が 武漢経済技術開発区に進出した。

現在、東風プジョーシトロエン、東風ホンダ、東風風神の年間販売台数は 70 万台近くとなっている。計画によると、東風プジョーシトロエン(東風シトロエン、東風プジョー)は第三工場を、東風ホンダは第二工場を稼働開始しており、また、東風風神の第一工場は生産能力の拡張に取り組んでおり、年産能力は 100 万台を突破した。武漢経済技術開発区は投資額が 50 億元(約 650 億円)を超える自動車完成車のプロジェクトの促進を図り、2015 年に完成車の年間生産販売台数を 200 万台としている。

上海 GM の武漢乗用車生産基地は年産台数を 30 万台からスタートし、段階を踏んで発展させる計画であり、将来年間 100 万台の生産能力を持たせる計画である。

その時、武漢は二つの大きな乗用車生産拠点を有することになり、年産能力は 300 万台を突破する。「東方デトロイト」プロジェクトの実現は決して夢ではない。

「MA60(新舟 60)」小型旅客機 10 年ぶりに運航を再開

武漢から襄陽までの航空券が僅か 50 元(約 650 円)

2012 年 03 月 29 日 武漢晩報

昨日、ある白い小型旅客機が武漢天河空港を飛び立ち、両側のプロペラが大きい音を立てていた。これにより「MA60(新舟 60)小型旅客機」が 10 年ぶりに武漢での再運航を果たした。

情報によると、当該旅客機は幸福航空により、武漢 襄陽 西安路線が開設され、毎日 1 便、11 時 30 分武漢発、12 時 25 分襄陽に着き、14 時 25 分西安に到着する。4 月 30 日まで、武漢から襄陽までの航空券がわずか 50 元(約 650 円)であり、税金を加えても総額 120 元(約 1,560 円)と、動車組(特急列車)の一等車の値段とほぼ変わらない。

2002年、武漢航空会社は初めてMA60(新舟60)航空機を導入し、武漢 恩施路線に就航した。当時、武漢の民間航空旅客輸送分野では、主力機種であった。その後、各航空会社がボーイング、エアバスなどの大型航空機を導入したことにより、MA60(新舟60)は徐々に出番を失い、農薬などの空中散布を行う農業機に改装された。このほか、東方航空武漢支社は武漢 襄陽線も毎日2便運航しており、それぞれ8時、10時40分に出発する。機体は支線向けの小型旅客機EMB145である。